

4 しずおか遺産「今川」を掘る！

静岡市葵区にある駿府城公園内の発掘調査では、幅3～5mの大溝で区画された戦国時代の屋敷地が発見されています。区画の規模や出土品から、駿府における今川氏の邸宅がこの付近にあったと考えられます。

足利将軍家ともゆかりが深い今川氏は、都との交流も盛んで、今川氏の邸宅には当時の文化人も多く訪れ、歌会や宴席が催されました。「かわらけ」の大量出土や、床飾りに用いられた中国製の青磁壺の出土から、当時の宴席の風景を想像することができます。

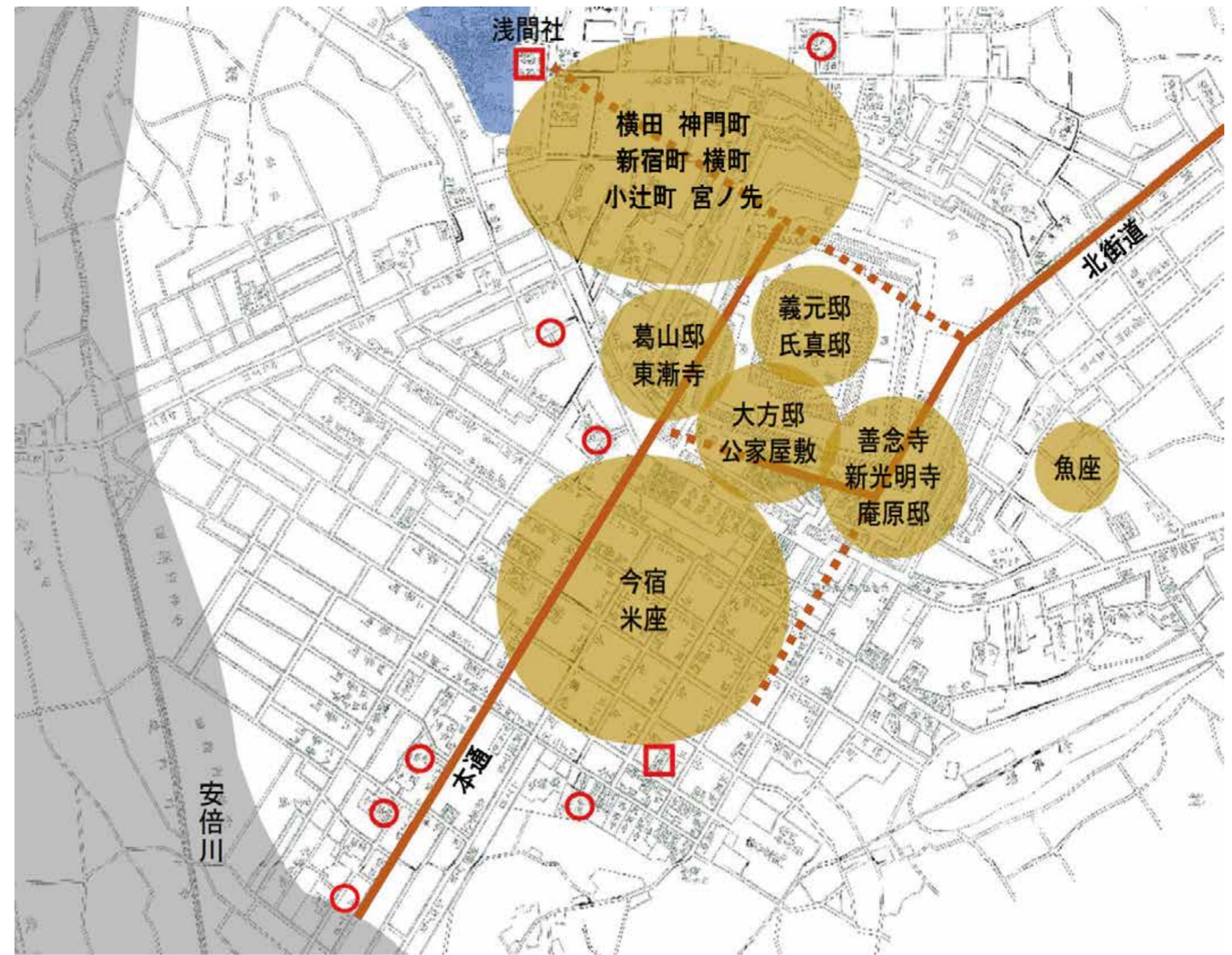
今川氏の邸宅は、徳川家康による駿府城の築城により失われましたが、大溝による区画割りは駿府城の堀や、城下町の地割りに引き継がれています。

令和6年1月29日に藤枝市、焼津市、島田市、静岡市の4市で静岡県に申請した今川氏ゆかりの歴史文化『文武に秀でた今川一族～伝統を守る山西の地～』のストーリーが「しずおか遺産」に認定されました。



縦横に掘られた大溝

掘削当初の大溝は、防御性を強く意識した断面形状が「V」字状となるものであった。その内側は園池や礎石建物をもつ屋敷地に利用されていた。



想定される戦国時代駿府の姿

主に本通沿いと浅間神社門前に広がる町人地と武家地、寺社地等が明確な境をもたずに併存していたと考えられる（○・□：場所が明らかな寺社）



通水する大溝

当初通水していた大溝はしだいによどんでいき、ゴミが投棄されるようになる。

左写真：縞模様に見える部分が水の流れによる堆積物

右写真：大溝に投棄された箸や折敷